

# 夢舞台で球児輝け



## センバツ開催決定

日本高野連の奥島孝康会長は、開催理由について被災地にある学校の出場の意欲が強いことを挙げ「一生に一度かもしれない選手たちの機会をなくしたくない。高校球児の真剣なプレーが被災地の方々のみならず、全国の人々の一筋の光となるのではないかと説明した。日本高野連によると、選抜大会は戦争の影響で1942〜46年に中断したが、1月に阪神大震災が起きた95年に大会では「がんばろう日本」をスローガンとして、入場料収入の一部を義援金として被災地に送ることもや、球場での募金活動の実施を決定。入場料収入を取りやめることで開会式を簡素化し、アルプススタジアムの鳴り物での応援はすべて禁止することになった。

## 入場料収入の一部寄付

東日本大震災を受け、第83回選抜高校野球大会の臨時運営委員会が18日、大阪市内で開かれ、予定通り23日から12日間の兵庫県西宮市の甲子園球場で開催されることが決まった。開催の可否については、さまざまな意見があったが、選手たちの夢を実現させ、被災地への光となることを願い、甲子園大会を実施する決断を下した。

## 「精いっぱいプレーする」

### 日本文理

日本文理ナインはセンバツ開催の決定を午後6時半すぎ、大阪市内の宿舎で大井道夫監督から伝えられた。主将の秋山輝が「やると決めていたんだが、心の底からは。被災者のことを思うとうまく言葉にできない」と語るなど、選手は複雑な表情を見せた。「こちらとしては本部の決定に従うしかない。日本文理のナインに開催決定を伝える大井監督(右)18日、大阪市内区

15日は被災地にある東北高(宮城)を除く出場31校が参加して組み合わせ抽選会を実施した。選手宣誓は奥島会長の抽選で、創志学園高(岡山)の野山慎介主将が行うことになった。

## 佐渡「迷いなし、勇気見せたい」



深井監督(右)から開催決定の報告を受ける佐渡ナイン=18日、大阪市北区

「たい」と危機感をにじませる。秋山は「みっともないゲームをしてしまった。開幕試合は、被災者の方が見られる状況ではないかもしれないが、精いっぱい全力プレーを見せたい」と話した。日本文理初戦は午前10時から、23日の大会第1日の試合開始時間が繰り上げとなった。第1試合の香川西1日本文理は午前10時、第2試合の前橋育英(群馬)―九州国際大付(福岡)は午後0時30分、第3試合の創志学園(岡山)―北海(北海道)は午後3時に、それぞれプレーボールとなる。

## 被災者に元気を

信越高校の佐渡主将は、被災者への元気を伝えるようなプレーを望む。ただ、新潟は近畿に被災地がある。学校の方に指導していきたい。

佐渡ナインは神戸市西區で行われた練習試合を終えて大阪市内の宿舎に戻り、部員がそろって夕食の午後6時から、深井道夫監督から開催の報告を受けた。選手たちは背筋を伸ばし、神妙な面持ちで話を聞いた。

深井監督は現在も多くの被災者が避難生活を過ごすなどの現状を踏まえて、「開催はいろいろな見方がある。言葉ではなく行動として、子どもたちが一生懸命やることで勇気をお見せするしかない。とにかく全力

この日、神戸市西區で行った練習試合は、地元滝川二に4-15、0-3で敗戦。正式開催を受け、仲川は「もう迷いはない。思い切り甲子園でプレーできることをかみしめて、しっかりと自分たちがやってきたことをやりたい」と意気込んだ。

◇おこわり 学年は本日付より、新学年で表記します。